

らしっく

自分らしく、粋なくらし

2004.1
春待号
Vol.6



広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

らしっくは、自分らしく、
粋なくらしを目指す人たちを
応援する情報誌です。

「ふれあう」 ドドドどしっくへ

らしっくサロン

達人図鑑

パソコン指導 ーTちよこボラ
絵手紙の指導 油谷育美さん

「プラザ・フリースペース発！」
ここはみんなの市民交流拠点」

まちづくり活動発表
&ふむふむ情報交換市
寺山にプレイパークをつくらう会準備委員会
コンリントウプレーパーク(宇品東プレーパーク)





- 2 **ビビッとらしくに**
まちづくり活動発表
&ふむふむ情報交換会
寺山にプレイパークをつくらう会
準備委員会
コンリントウ プレーパーク
(宇品東プレーパーク)
- 9 ひろしまの会社の
おもしろPスポット
こだわりのミュージアム
- 10 **おもしろPレポート**
松下電工(株)ナイスショールーム広島
- 12 **よりみちデポ**
楽々園公民館×美隅公民館
- 14 **らしくサロン**
プラザ・フリースペース発!
ここはみんなの市民交流拠点
- 18 **達人図鑑**
パソコン指導 ITちょこボラ
絵手紙の指導 油谷育美さん
- 20 **Hキャンパス**
広島市立大学特集
- 22 **らしくCafé**
市民活動に活用できるホームページ
- 23 **らしく情報の森**
- 26 **a-ネットしま専科**
- 27 **プラザ通信**
- 30 てくてく特派員と行く
街道散歩
向洋半島ウオーキング
向洋新町地区～半島外縁地区



表紙タイトル「舞う雪、咲く花」
監修/NPOセトラひろしま 橋本真知子さん
撮影/田中三輝夫 モデル/梶下星奈ちゃん(4歳)と裕美さん

お二人の熱い思いの結晶である「花野」は、平成10年(1998年)7月7日(日)にオープン。自分の描いた絵を「この空間に」と置いて行く人や、矢野の郷土を研究している「発喜会」、全国的な活動をしている「NPO法人日本民家再生リサイクル協会」との出合いなど、さまざまな情報と人と物が集つてきます。「この年になって、郷土愛が生まれた」という藤本さん。

また、花野のすぐ前にあった古民家の材料を譲り受け、平成15年(2003年)3月26日、ふれあいスペース「縁」に再生。地域の縁側でありたいとの思いが、ネーミングに込められています。そして民営の公民館的スペースとして、こども、草の根の活動が広がっています。

目下の目標は、かつて多くのカキ船屋形がいた矢野に屋形をよみがえらせ、戦前のレシビで町おこしをすること。「この場所に気付かされた」、そんな素敵な空間にあなたも訪れてみませんか?



もう一つのふれあいスペース「縁」。
取材した日は、外庭でガーデニング教室が行われていました

ふれあいスペース 縁 えん
安芸区矢野西4-8-32 ☎090-4141-8665
営業時間/午前10時～午後6時 定休日/月・火
1F貸ギャラリー 千円/1日



茶房ぎやらりー
花野
安芸区矢野西1-31-10 ☎082-888-6003
営業時間/午前10時～午後6時 定休日/月・火、第1・3日曜日
2F貸ギャラリー 5千円/1日
※ボランティアグループによるチャリティーコンサートなどの場合、実費だけで貸出しています。



JR矢野駅近くの茶房ぎやらりー「花野」。古民家の白壁を背景に、季節ごとの自然が彩りを添えます



藤本ご夫妻と、趣のある花野のインテリア

暮らしく

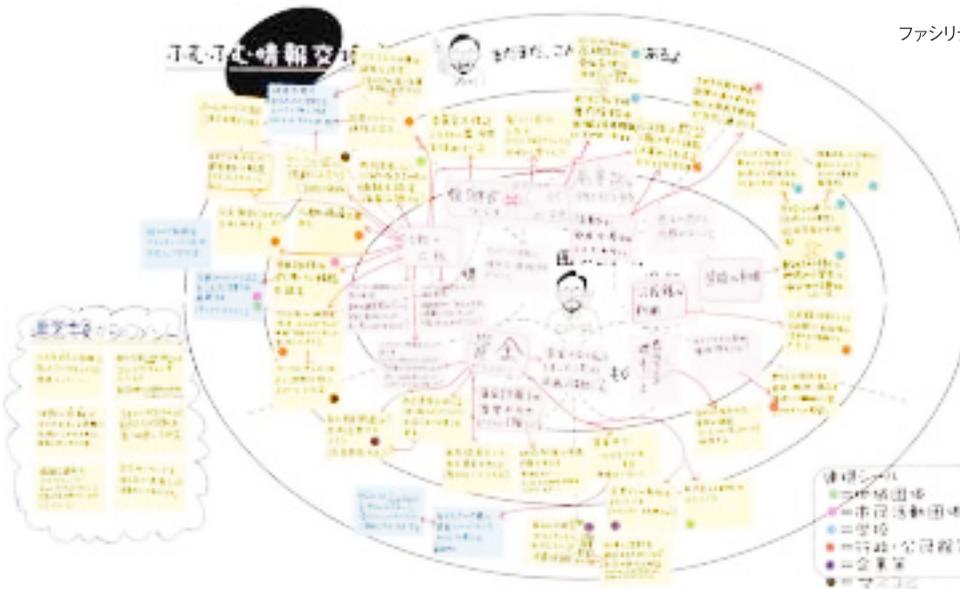
Vol.3

自分らしく豊かに、でもちよつぱりこだわって……。ついでにまわりのみんなも巻き込んでゆつくりたっぷり楽しんでお楽しみ！
そんなふうにご覧いただき楽しんでほしい人を、紹介します！
今回は、古民家再生を通して、人・ものが集うコミュニティ拠点を広げられている、茶房ぎやらりー「花野」の藤本ご夫妻です。

そして、古民家と藤本夫妻の奮闘が始まりました。一旦壊してから建て直す建築方式と違い、再生作業は、二本の柱の傾きを直すのに他の梁や柱まで直す必要が出てきます。気が付けば年という長丁場の作業となり、新築・軒分に相当する費用がかかったそうです。しかし、完成した姿が脳裏に焼き付き、そこで過(す)光景を実感できていたから不安はなかったとのこと。公子さんは、「こういうお店をやりたい」というリアルプランを作り、いろいろなギャラリーに飛び込みで教えを請うほど。初めてづくしの経験は、さまざまな場面で多くの人々に支えられたことで、「生懸命という気持ちで伝わったのかな？」とおっしゃっています。

古い建物の材料を生かし、その魅力を掘り起こして現在につなげる「古民家再生」。そんな空間づくりをされ、地域活性化の拠点となっている安芸区矢野の茶房ぎやらりー「花野」。ここでは、喫茶はもちろん、陶器の販売やギャラリーもあり、地元のアーティストたちが落語会や演奏会をするなど、さまざまな人が集う憩いの空間となっています。

古民家の持つ温かい佇まいが好きだった藤本政彦・公子夫妻に運命の出合いが訪れたのは、平成8年(1996年)5月。安芸区西茨城郡岩間町にある、古民家を再生したお茶処「栗の家」に立ち寄った時のことでした。土間に立った瞬間、その空間の持つ暖かいぬるぬるに圧倒され、その場でオーナーに「どうやったらこんな空間ができるのか」と質問。この出合いから、藤本さんは徐々に「親から引き継いだ実家を何とかしなければ」と考えるようになりまし



ファシリテーター役の福田由美子さん(運営委員)が参加者の意見を巧みに引き出してくれました



巨大な模造紙が、参加者の意見でいっぱいになり埋め尽くされた情報交換市。ピンクが困ったこと、黄色が解決方法、青がまとめた意見です。

「ふれあう」

子どもたちと大人が、自然と人間が、行政と住民が「ふれあう」……そんな場づくりに力を注ぐ、いきいきまちづくり活動をご紹介します。



ビビッドとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividに(イキイキと)生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。さあ、あなたもビビッド、しゅっくに暮らしてみませんか？

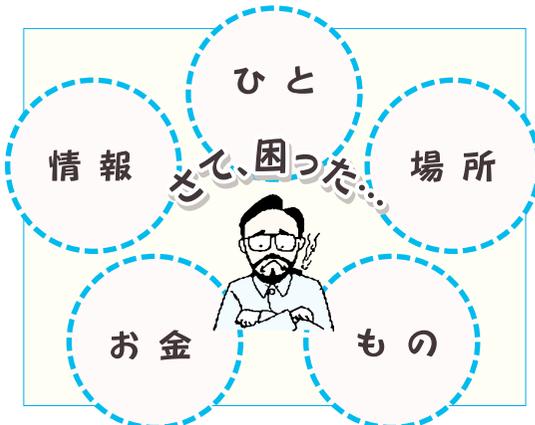


まちづくり活動発表&ふむふむ情報交換市

平成15年(2003年)11月15日、公益信託広島市まちづくり活動支援基金(愛称ひと・まちづくり活動発表&ふむふむ情報交換市)の第1回助成を受けた団体の中間活動発表会、「まちづくり活動発表&ふむふむ情報交換市」が開催されました。当日は、助成団体を含め100人近くの参加があり、2部構成で行われました。前半の「まちづくり活動発表」では、まちづくり活動発展助成部門(以下、発展部門)7団体、団体育成助成部門(以下、育成部門)10団体のうち5団体の計12団体が、助成を受けた活動の状況について発表しました。後半の「ふむふむ情報交換市」では、活動上困ったことやその解決策などについて、参加者全員で意見を交換しました。

■まちづくり活動の発表

第1部は、育成部門から5団体、続いて発展部門から7団体が、これまでの活動の進捗状況とその成果を発表しました。それぞれ模造紙大のポスターに、活動の記録や成果を写真やイラストなどを交え、分かりやすくまとめ



ていました。育成部門は3分ずつ、発展部門は5分ずつの限られた発表時間でしたが、活動をどのように実施し、助成金などのように生かされたかなど、要点をまとめた報告が行われました(発表された助成団体の活動状況はP4~5をご覧ください)。

■ふむふむ情報交換市

第2部は、まず発展助成部門7団体に、「活動する上で困っていること、困ったこと(課題)」をそれぞれカードに記入し、発表してもらいました。カードは、会場の前面に張り出した巨大な模造紙に、あらかじめ想定していた「ひと」「場所」「もの」「お金」「情報(広報)」の5つのカテゴリ(上図)に分けて、貼っていききました。次に、カテゴリごとに、その課題をどのように自力で克服したのか、それぞれの活動の中で見出した対処法を発表してもらいました。また、ほかの

【困ったこと】
・スタッフ人材不足、後継者がいない
・活動に市民が参加してくれない
・「解決策情報」
・無理なく楽しいグループの雰囲気があれば、ボランティアは集まってくる。
・当会とかかわりある介護福祉の専門学校生にアプローチした。(学校)
・ボランティアに関心ある高校生に呼び掛けた。(学校)
・違う分野の団体と連携すると、市民参加の広がりがあがる。(市民活動団体)
・公民館と連携し広報紙に募集掲載してもらった。(公民館)
・団体内に委員会制を設け、後継者づくりや役割分担など、それぞれ責任を持って活動している。

【場所】
・活動場所がない
・「解決策情報」
・学校を利用する。地域の小学生が参加できる機会提供や、総合学習の時間と関連付けて活動する。そのためには、普段から校長先生たちとのコミュニケーションが大切。(学校)

【もの】
・公民館の事業として、共催連携など働き掛けてみる。(公民館)
・「困ったこと」
・活動に必要な物品探しが難しい
・「解決策情報」
・目的に合わせて、レンタルサービスや人的ネットワークを活用し資材調達する。
・市民交流プラザの市民活動のための館外貸出し備品を利用する。(行政)

【お金】
・「困ったこと」
・資金が足りない
・資金が不足し新たな活動ができない
・「解決策情報」
・活動資金を作るため、地域のイベントに出店する。
・申請上の制約をよく把握した上で、助成制度を活用する。
・毎月総会を開き、会員に会計報告して財政事情を理解してもらっている。なので、足りない時は寄付が集まりやすい。
・自分たちの力量と資金とのバランスを考え、無理はしない。
・企業や従業員の社会貢献活動のテーマに合わせた連携を考える。(企業)

【情報】
・「困ったこと」
・活動の広報に苦労している
・「解決策情報」
・マスコミに情報提供する。自分たちの主張ばかり通すのではなく、報道側の要求に合わせて考えをことも大事。(マスコミ)
・「ミニコミ」誌に掲載してもらったり、テレビなどの情報番組でPRしてもらう。(マスコミ)
・メールやファクス通信、ホームページを活用。口コミも効果的。
・分野を超えた活動でネットワークをつくる。(地域団体・市民活動団体)

このように、公民館や学校、地域団体などと組んで活動を広げているという意見が多く出されました。ほかの団体や機関とコミュニケーションをとったり連携したりすることは、抱えている課題を解決する上で有効な手段と言えるそうです。

この情報交換市でさまざまな分野の団体が集い、それぞれが持っている情報やノウハウを意見交換できたことは、直面する悩みだけでなくまだ気付いていない課題なども引き出され、今後の自分たちの活動のあり方やネットワークの生かし方などを考える上で、大きなヒントになったのではないのでしょうか。



6月の公開審査会同様、会場運営、司会、受付などは市民ボランティアによって運営されました

まちづくり活動の発表の様子



「まちづくり活動発表&ふむふむ情報交換市」プログラム

【第1部 まちづくり活動の発表】

13:00~	オープニング
13:10~	育成部門(5団体)の団体発表
13:35~	発展部門(7団体)の団体発表

【第2部 ふむふむ情報交換市】

14:30~	情報交換市
16:00~	まとめと運営委員コメント

発表用の模造紙ポスターを壁に掲示した情報コーナー

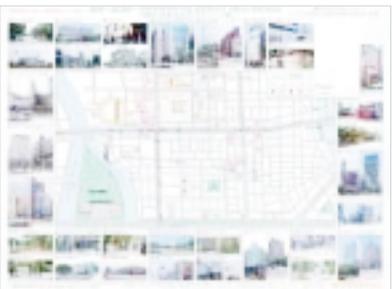


第2部の前に「まちづくりのうた」を歌って踊ってリラックス

まちづくり活動発展助成部門

ほのぼの広島会
広島・バリアフリー飲食店マップ

2年前「広島繁華街バリアフリー・トイレマップ」を作りましたが、今回の助成で新たに、お年寄りや障害のある人でも安心して行くことのできる飲食店32店舗を紹介した、「広島市歓楽街・心のバリアフリー！飲食店マップ」を作成しました。今後、約40店舗に増やした第2版を合わせ、計3万部を印刷・配布する予定です。



おくはた電ボ隊
自然体験学習・おくはた分校

安佐南区沼田町伴の旧伴小学校奥畑分校（現集会所）で、自然体験学習を月1回程度行っています。子ども

草津まちづくりの会
歴史と文化資産を生かしたまちづくり事業

西区草津町の歴史と文化の良さをみんなに知ってほしいという思いから、8月に地域を博物館に見立てた「草津まち・オープンミュージアム」を開催しました。お寺や酒蔵での演奏会、まち歩き、交流広場の運営などさまざまなイベントとともに、草津の昔ながらの建物や写真などの歴史が詰まったCD-ROM、「1000年歴史草津まちIT博物館」を完成させました。



団体育成助成部門

可部南女性会
花のボランティア

毎月第一木曜日、病院や地域の集会所、小学校などで花のスポットガーデンのお世話に回っています。当会が持ち



と大人が一緒にあって、農業やホテル繁殖、林間学校、神楽鑑賞などさまざまな体験をしました。毎回反省会を開くことで、スタッフの結束力を強めています。

新宮坂
街づくり協議会
新宮山学びの里山構想

佐伯区五日市市にある新宮山を学びの里山として活用するため、竹林や雑木林の整備に必要な機材の購入に助成金を充てました。竹で飯盒炊飯した「竹こみごはん」や竹の花瓶づくりなど、さまざまな竹の活用をしています。竹細工づくりやソリメン流し



込んだ花は計6カ所に広がり、みんなで役割分担して世話を続け、はや3年になりました。

プロジェクト・シチズン
地域(まち)を元気にする
コミュニティ・リーダー養成講座

コミュニティ・リーダーとは、地域社会の中で、地域と人、人と人を結びつける能力を持つ人のこと。人間関係トレーニング、コミュニケーション能力、チームワークなどを学び、今後2月まで全5回の講演やワークショップで企画づくり、リーダーシップ、意思決定手法などを学びます。



HJV広島浄心院
ボランティア
広島から世界への写真展

7〜8月にかけての9日間、中区旧日銀建物で開催した世界難民の実状などを伝える写真展に、総勢1,794人も来場がありました。浄心院を含むさまざまな団体が構成する、「動き続ける市民ネットワークmoven」が運営。未来を担う子どもたちが運営スタッフとして多数参加するとともに、今後学校等への巡回展を行うなど活動が広がっています。



広島市
レクリエーション協会
2003わんぱくはだしのジャンボリー

9月20日中区中央公園にて、全国レクリエーション大会INひろしまの関

ワールド・ピース・ヒロシマ
世界平和をテーマとした
市民参加型イベントの開催

7月までに全国から寄せられた約1,800枚の平和メッセージを1m四方に張り合わせ、ジャンボ折り鶴約30羽を制作し、8月平和記念式典に持参しました。このほか、12月に平和の鐘を鳴らすピエール・大晦日には世界平和のためのカウンタダウンも。



日本語教室こぐさ
在日外国人に対しての
日本語指導と国際交流

中区竹屋公民館で在日外国人を対象に、お花見、お茶会、ゆかたの着付け、日本料理づくり、みかん狩りなど、日本文化に接する機会を提供しました。



連イベントとして開催された同ジャンボリー。子どもたちにはだして思い切り遊んでもらい、心の開放や創造力の育成を図るイベントで、自然の緑の中で体を動かして遊ぶ57種のプロگرامに、子どもや親子連れ総勢1,045人が参加しました。



たつじんくらぶ
昔いろいろ発見隊

昔懐かしいさまざまな遊びをしようとして、西区三條公民館で小学生とその保護者を対象に、全4回のプログラムを実施しました。これまでに、メンコで遊んだり、あんみつを作ったり、ほうきを使って掃除をしたりして、日本文化を味わう体験をしました。昔遊びはやってみると意外に難しく、指導者探しや道具の手配が大変でした。



子どもをミソに
まちづくり隊
子どもの参画(主体性)を
大切にした遊び事業

6〜8月、西区古田公民館と共催で、「住んでみたい家づくり教室」全3回を開催しました。ワークショップによるアイデア出しから作戦会議、材料集め、そして制作に至るまで、子どもたちに仲間を作る楽しさや大切さを学んでもらいました。



このほか育成部門は、コスモス・ひまわり街道クラブ(コスモス・ひまわり街道づくり事業)、NPO法人ART Peace(平和創造プロジェクト)、あいわくランド(あさひが丘へ知的障害者のための作業所の設立)、KOO・KOOクラブ(潤いの街づくり)、いきいきネットひろしま(戦争の時代を生きたヒロシマの女性史編纂事業)が助成を受け、活動中です。これらの団体も合わせ全17団体が、平成16年(2004年)5月15日(土)に行われる最終活動発表会に向けて、活動を展開していく予定です。どうぞご期待ください。